

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前		我部 政明	所属		法文学部 総合社会システム学科
			職名		教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	国際政治学の毎年開講を目指す。クラスでは、事前に読むべき資料を配布をおこない、事前学習及び事後学習に役立てる。ゼミを開講し、3年次の専門教育を充実させ、4年次の卒業研究を指導する。共通教育において担当科目の充実を図るため、事前学習及び事後学習に役立つ文献資料を、Web-Classを利用して配布する。受講生が少ないときは、紙媒体においても、配布する。大学院博士後期課程の指導学生に対し、学位論文作成を指導する。		0.50	国際政治学の毎年開講を目指して、前期に開講した。クラスでは、事前に読むべき資料を配布をおこない、事前学習及び事後学習に役立てた。ゼミを開講し、3年次の専門教育を充実させ、4年次の卒業研究を指導した。共通教育において担当科目の充実を図るため、事前学習及び事後学習に役立つ文献資料を、Web-Classを利用して配布した。大学院博士後期課程の指導学生に対し、学位論文作成を指導した結果、査読付き学術雑誌への掲載を実現させた。翌年度2018年4月の学位論文審査の予備審査の申請資格を獲得できた。
研究	0.20	米トランプ政権のアジア太平洋政策に関する科研費を、昨年10月に申請をした。その採択結果を待つ。採択されれば、研究企画に沿った作業を行う。採択されないとき、国際沖縄研究書の拠点化事業「島嶼研究」プロジェクトに参加し、研究発表を行い、成果を刊行する。		0.20	米トランプ政権のアジア太平洋政策に関する科研費が採択され、今年度より向こう3年間にわたり、研究企画に沿っての調査研究を行っている。その成果の一部を、沖縄対外問題研究会主催のシンポジウム(2017年7月23日)にて、報告した。また、国際沖縄研究書の拠点化事業「島嶼研究」プロジェクトに参加している。昨年度に、島嶼の安全保障に関する論文が査読付き学術雑誌に掲載された。
社会貢献	0.05	外務省の公開された沖縄関係文書のデータベース化を進め、内外の研究者や関心を持つものへの資料提供を行う。国際沖縄研究所にての「島嶼研究」プロジェクトに参加し、成果を一般市民へ公開する。また、公開授業として講義を社会人対象に提供を行う。		0.05	外務省の公開された沖縄関係文書のデータベース化を進め、内外の研究者や関心を持つものへの資料提供のために、目録一覧を完成させた。図書館との協議、予算、所蔵元の外務省外交資料館との調整を行なっている途上である。来年度に実現を目指す。また、国際沖縄研究所にての「島嶼研究」プロジェクトに参加した。さらに、公開授業として講義を社会人対象に提供を行った(国際政治学3名、戦争と平和の諸問題13名、日米関係1名)。
管理運営	0.25	政治国際関係専攻課程の主任として、管理運営に寄与する。他に、委員会の委員に従事する。		0.25	政治国際関係専攻課程の主任として、管理運営に寄与した。他に、予算委員会の委員に従事した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		二宮 元	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	授業評価アンケート等の学生の声に耳を傾けながら、より分かりやすい授業の構築に努力する。1年次の指導教員として、学生生活のサポートに尽力するとともに、演習担当の学生にたいする論文指導および就職支援を責任をもって行う。			0.45	継続的に授業改善の工夫に取り組むとともに、年次指導教員及びゼミ指導教員として可能な限り丁寧に学生に対応するようにした。		
研究	0.35	比較政治学の研究を進め、特に欧米諸国で広がる排外主義や新しい左派勢力の台頭といった現代政治の事象について研究を深めていく。			0.30	ヨーロッパ諸国での排外主義の台頭についての論文を執筆し、学会誌に寄稿した。		
社会 貢献	0.10	教育・研究に支障が出ない範囲で、求めに応じて貢献する。			0.10	依頼のあった学外での講演やシンポジウムは基本的に引き受けた。		
管理 運営	0.15	全学の動物実験委員会の委員としての任を果たすとともに、学部の教員養成委員会の委員として教職志望の学生を責任をもってサポートする。専攻内での役割(会計等)を着実に実行する。			0.15	委員会の仕事は概ね支障なく遂行できた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		越野 泰成	所 属		法文学部総合社会システム学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	1. WebClassなどを使用して例年通り、予習のためのレジュメ配布や復習のためのレポートの提出などを実施して、さらなる単位の実質化を行う。 2. 昨年度の授業アンケートの指摘事項をもとに、授業の改善を心がける。 3. 経済学演習を通し、ゼミ生の履修指導、就職指導を行う。			0.25	1. WebClassなどを使用して例年通り、予習のためのレジュメ配布や復習のためのレポートの提出などを実施して、さらなる単位の実質化を行った。 2. 昨年度の授業アンケートの指摘事項をもとに、授業の改善を心がける。 3. 経済学演習を通し、ゼミ生の履修指導、就職指導を行った。		
研究	0.25	1. 現在進行中の論文の完成させ、論文の投稿・採用を目指す。 2. 科研費応募をはじめ、外部資金獲得に向けた取組を行う。 3. 学内の戦略的研究推進経費による研究に参加し、研究遂行に協力する。			0.25	1. 現在進行中の論文の完成させ、紀要に投稿した。 2. 外部資金獲得に向け、科研費に応募した。 3. 学内の戦略的研究推進経費による研究に参加し、研究遂行に協力した。		
社会 貢献	0.10	1. 経済法研究会の会員として研究会に参加し、意見の交換等を通し、地域に貢献する。 2. 政策金融評価業務検討委員会委員として、会議に参加し、意見の交換等を通し、地域に貢献する。			0.10	1. 今年度は、講義と重なり、経済法研究会に参加できなかった。 2. 政策金融評価業務検討委員会委員として、会議に参加し、意見の交換等を行った。		
管理 運営	0.40	1. 大学評価・IRマネジメントセンター副センター長として、センター長を補佐し、法人評価及び認証評価の評価業務を遂行する。 2. 大学評価・IRマネジメントセンター副センター長として、センター長を補佐し、全学的なIR活動を遂行する。			0.40	1. 大学評価・IRマネジメントセンター副センター長として、センター長を補佐し、法人評価及び認証評価の評価業務を遂行した。 2. 大学評価・IRマネジメントセンター副センター長として、センター長を補佐し、全学的なIR活動を遂行した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩橋 培樹	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	担当講義は以下の通り。経済数学(夜間)、労働経済学(昼間・夜間)、経済学演習Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学特論(大学院)、囲碁の世界(共通教育)。体系的で分かりやすい講義に努め、学生が知識を習得するのみならず、学ぶ意欲を高められるような内容に努める。			0.40	初回講義に、毎回の講義のテーマならびにキーワードを記した予定表を配布し、そのカリキュラムに従う形で講義を進めることができた。受講人数、出席率ともに高いもので、一定水準以上の講義を達成できたものと思う。自己評価:A		
研究	0.40	昨年度、応用地域学会で発表した論文(タイトル:地域産業政策の成果に関するパネルデータ分析)を改訂し、専門誌に投稿、掲載されることを目標としたい。			0.40	論文を専門誌に投稿。条件付きで掲載可との判断を受けて、現在リバイス中である。自己評価:A		
社会貢献	0.20	沖縄県庁企画部が主催する「沖縄地域分析活動会」のメンバーとして、沖縄県の統計を活用した地域貢献を目的とする分析活動に従事する。			0.20	沖縄地域分析活動会の運営責任者が体調不良により休職を余儀なくされており、秋以降、活動休止中である。自己評価:B		
管理運営	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		瀬口 浩一	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.20	経済学演習(ゼミ)を中心に「県外大学とのディベート大会」「学内合同ゼミ」「学内外プロジェクトへの学生の参画」といった共同研究と、「卒業論文」での個人研究を通じて、「広い視野から考える力」「分析力」「忍耐力」「協調性」が身につくよう指導にあたる。大学及び大学院の講義では「幅広い視野」と「柔軟に考える力」が向上するよう指導する。学生支援では、就職活動支援の知識や経験を活かし、就職活動開始前からインターンシップの活用など、支援・指導を行う。就職活動期間は、進路の相談、履歴書やエントリーシートの添削、面接指導など、全般的な指導を行っていく。推薦書の作成などにも丁寧に応じたい。		0.20	ゼミ活動(3年生20名、4年生20名)として、9月に「県外大学とのディベート大会」(開催:関西)、2月に「県内外大学ゼミとの研究報告会」(開催:琉球大学)、2月に「沖縄県工業連合会と琉球大学との連携事業(受託研究)プロジェクトに学生が参画」、そして11月と1月に「卒業論文・中間及び最終報告会」を開催した。就職状況もほぼ全員決定し、企業採用ご担当者から左記のゼミ生の能力が評価されたことも確認できた。授業評価アンケート調査では、講義内容に関する関心も7割超(調査票No.15の設問を参考)と高めることができた。教育と就職活動支援をなど、左記の学生支援・指導に伴う成果を十分確認でき、目標が実現できたと考えている。(A)				
研究	0.15	学内外研究者と連携・実施する国際沖縄研究所の研究プロジェクトに参画し、地域経済や島嶼地域の課題に関する研究に当たる。学外組織からの受託研究を終了できるように進める。研究会等に参加しながら、財政や地域・都市経済の分野で新たな研究課題に取り組むことも目指したい。		0.15	学外研究者と連携した「本学国際沖縄研究所 共同利用・共同研究」プロジェクトに参画し、複数回の研究会などを通して、本年3月に成果を提出した。学外組織からの受託研究も本年2月に終了した。また、目標にはないが、科研費を取得した。ただ、財政や地域・都市経済の分野で新たな研究課題に取り組むところまではいかなかった。全体として左記の目標を概ね実現できたと考えている。(A)				
社会 貢献	0.20	財政や地域・都市経済の専門家として、行政や企業等における各種委員会委員や講演、報道機関からの取材対応などを通じて、研究成果を社会に還元できるように取り組む。地域への貢献活動として、市民への公開授業や高大連携授業も実施し、専門的な視点や知識が養われるよう取り組んでいく。		0.20	行政や企業等の委員会・講演等(10程度)、国内・県内外の報道機関からの取材対応(10程度)など専門的な助言・発言の機会を通じて、研究や専門的知識を社会に還元する機会にも恵まれ、地域社会との接点を持ったことで、積極的な社会貢献ができたと考えている。(A)				
管理 運営	0.45	全学的な組織や委員会などの委員を担当する。引き続き、新学部設置の為の準備にも積極的に携わっていく。それらと同時並行で、昨年度に続いて、専攻主任と学部委員会委員の業務を全うできるように取り組みたい。		0.45	全学では複数の委員会・プロジェクト・ワーキング等(5程度)の委員を、学部・専攻では経済学専攻課程主任を務めると同時に、新学部関連の複数の委員会(4程度)の委員も担当した。年間通して入試業務にも携わり、目標以上の管理運営業務に関わることとなったため、左記の目標以上に達成できたと考えている。(S)				
計	1.00			1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		堀 勝彦	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.65	講義では、昨年度に引き続き板書・スライドとともに映像資料を有効に活用し、講義内容と現実社会との関わりがより実感を持てるよう工夫を行う。またWebclassを通じて、講義資料を配布するとともに、適宜、小テストを実施し、自学自習を促す。また、ディスカッションも効果的に取り入れ、双方向の授業となるよう工夫する。ゼミでは、理論と現実の両面から経済を理解を促すため、文献の輪読や研究発表に加え、フィールドワークも取り入れていきたい。また、就職活動などの支援にも努める。また3年次指導教員としての活動も引き続き行う。			0.70	昨年度に引き続き、講義やゼミでは、板書での補足も行いつつ、スライドや映像資料を活用して現実社会との関わりを実感を持てるようさらに工夫を行い、Webclassを活用して自習用に提供する講義資料や演習問題を提供した。演習科目では、4年生の卒業論文を丁寧に読み繰り返しコメントを返すことで、昨年度より論文指導の質を高め、大学での修学の集大成である卒業論文として十分なものとなるよう努めた。課外活動などでは学生の自主性をより高めるように努めた。また、3年次指導教員として、1・3研修を実施した。		
研究	0.20	代表研究者となっている科研課題をはじめ研究分担者として参画する2つの科研課題や今年度採択された京都大学経済研究所における共同利用・共同研究拠点研究課題を中心に関係する研究会を開催・参加し、活発な意見交換を行いつつ各研究課題の成果につなげていく。			0.10	研究分担者として参画する京都大学経済研究所における共同利用・共同研究拠点研究課題が採択された。また、京都大学で自身の研究に関する発表を行った。その他、採択されている3つの科研プロジェクトの課題を進めた。しかし、今年度も予定より多くの時間を他の業務に割いてしまい、研究課題を十分にすすめることができなかった。		
社会 貢献	0.20	マクロ経済学とゲーム理論の科目を公開授業として提供する。公開授業では映像資料も活用するなどして、受講する市民の方々や高校生にとっても意義ある講義となるよう努めたい。また昨年度から引き受けている沖縄地区税関のモニターとしての活動も行うとともに、現在依頼を受けている学術誌の査読などもしっかりと行いたい。			0.10	昨年に引き続き、経済系2科目を市民向け及び高校生向けに公開した。その他、沖縄地区税関モニターとして会合への参加・意見交換、学外の英文査読誌のレフェリーを行った。		
管理 運営	0.10	昨年度に引き続き図書・紀要委員として紀要の発行・運営に携わる予定である。またこれに加えて、今年度は附属図書館運営委員会と附属図書館自己点検・評価委員会も担当する予定となっている。担当している役割を遺漏なく果たし、購読冊子や紀要の発行形態の見直しなど、限られた予算の下でも学術研究発表の環境を維持・向上できるよう工夫・提案を行いたい。			0.10	図書委員として紀要の発行・運営に携わり、また来年度から経済学プログラムで発行予定のワーキングペーパーの規定などの作成に関わった。その他、入学試験関係の委員としての仕事に携わった。		
計	1.15				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		星野 高德	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.50	演習科目では、卒業論文の指導方針を確立し、3年生には卒業論文のテーマ設定、4年生には卒業論文の完成に向けて指導をする。講義科目では、日本経済史や社会経済史を学ぶ意義が理解できるような講義を行うとともに、図表や写真などを用いて視覚的にも分かりやすい授業になるように努める。		0.40	演習科目では、4年生の卒業論文の執筆、3年生のテーマ設定をサポートすることができた。講義科目では、図表等を用いたり、授業の最初と最後に簡単な復習やまとめをしたりすることにより、当時の時代背景や経済史を学ぶ意義が理解できるような講義になるように努めた。日本経済史、社会経済史 I では、これまでの自分自身の研究や最新の研究動向を授業に反映するとともに、現在起きている問題との関係にも言及した。			
研究	0.40	科研費の研究テーマに基づき、各都市の資料収集を進めるとともに、研究会発表、論文執筆に向けた準備を行う。		0.40	5月に行った学会発表でのコメント、査読結果を踏まえて、戦前期名古屋市に関する研究論文の執筆・修正を行い、学会誌への掲載が決定した。また、引き続き、東京、大阪、名古屋に関する資料調査を行い、来年度以降の研究報告の準備を行った。			
社会 貢献	0.00			0.10	学内の「水循環プロジェクト」のコアメンバーとして、研究会、会議に参加した。10月からは沖縄地区税関の税関モニターの活動を開始し、税関関係者及び他のモニターと意見交換を行った。			
管理 運営	0.10	3年次の指導教員として行事などを円滑に運営するとともに、新学部 の設置に関して教育運営検討ワーキンググループなどでの準備に 参加する。		0.10	教育運営検討ワーキンググループ会議に出席し、来年度以降の提供科目 などに関する調整を行った。また、オープンキャンパスにおいては、専攻の 広報委員として、準備・運営を行った。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西 圭介	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	新しく、優れた研究を紹介し、わかりやすい授業をする。		0.40	最近翻訳されたポメラント『大分岐』や2015年12月に出版されたBeckert, "Empire of Cotton"について講義科目「西洋経済史」の中で紹介した。ゆえに年度目標設定を達成したと考える。			
研究	0.50	論文を書く。		0.50	2018年に出される『経済研究』(琉大法文学部)に「世紀転換期のドイツにおける郊外化 ―ビーレフェルト郡のシルデシエを事例に」を投稿した。ゆえに年度目標設定を達成したと考える。			
社会 貢献	0.10	自転車を活用した町おこしの例についてNPOで講演する。		0.10	NPO: 自転車活用推進研究会で講演した内容はYoutubeで視聴できる。			
管理 運営	0.00			0.00				
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		樋口 一彦	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定			業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.30	学部専門科目として、「基礎国際法」「展開国際法」「法学演習」、大学院科目として「国際法特論」「国際人権法特論」「国際人道法」を担当する。法学演習履修の3・4年次学生に対して必要な指導を行う。			0.30	学部専門科目として、「基礎国際法」「展開国際法」「法学演習」、大学院科目として「国際法特論」「国際人権法特論」を担当した。大学院科目の「国際人道法」については、受講者がいなかったので開講しなかった。法学演習履修の3・4年次学生に対して必要な修学上の指導を行った。		
研究	0.40	国際人道法研究を継続する。			0.40	国際人道法研究を継続した。		
社会貢献	0.00	教育、研究、および管理運営を行うことにより「社会貢献」を行う。従って、独自の「業務ウエイト」を置かない。			0.00	教育、研究、および管理運営を行うことにより「社会貢献」を行った。(独自の「業務ウエイト」を置いていない。)		
管理運営	0.30	全学委員会委員として、URGCC委員、学部委員として、教育委員会委員、進路支援委員会委員(前期のみ)、法学専攻内委員として、専攻副主任(後期のみ)、FD委員を担当する。			0.30	全学委員会委員として、URGCC委員、学部委員として、教育委員会委員、進路支援委員会委員(前期のみ)、法学専攻内委員として、専攻副主任(後期のみ)、FD委員を担当した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		戸谷 義治	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	全学教育「憲法概論」、専門教育「基礎労働法」「応用労働法」「法学演習」「ハワイ英米法研修」、大学院「労働契約法特論」を開講する。必要に応じて、進路(特に進学)に関し、希望する学生を支援する。			0.30	当初予定の各科目を開講したほか、研究大学院進学希望学生の指導を行い、また新たに外書購読(英語)を開講して、外国語による研究書講読の指導を行った。		
研究	0.40	自らが代表者となって科研費・若手Bを獲得できたので、これを使って倒産労働法の日仏比較研究を進める。また、科研費・基盤A(中国労働法制の研究)、及び同・基盤C(個別労働条件定立過程と労働者集団との関係)の共同研究者として研究を進め、複数回の学会・研究会報告及び論文の執筆を予定している。そのほか、科研費等外部資金の新規申請を進める。			0.40	獲得した科研費等を利用して、研究を進め、成果として国際シンポジウム2回、国際シンポジウム(コメント)1回、国内研究会2回の口頭報告を行うとともに、著書(共著)2冊を執筆した。また、分担者として複数件の科研費申請を行った。		
社会 貢献	0.15	必要に応じて、社会貢献活動を行う。特に、地元実務家と研究会を開催して研究成果の普及に努めるとともに、県外からも研究者・実務家を招聘して研究会報告を依頼し、法律実務への貢献を目指す。			0.15	県外からも研究者・実務家を招聘して、地元実務家との労働法研究会を計4回開催した。また、要請に応じて自治体の審議会委員等を務めた。		
管理 運営	0.15	割り当てられた委員会等の職務を行う。			0.15	割り当てられた委員会の職務を行った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	